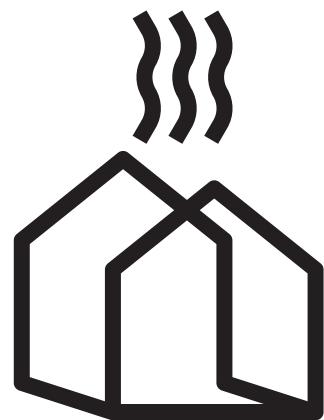


サウナテント FST01 取扱説明書

S a u n a t e n t **MUSHIBURO**



使用上の注意および禁止事項

この警告事項を守らないと死亡や重傷に至る重大な事故を起こす恐れがあります。

- 製品は安全面に十分に配慮された造りとなっていますが、誤った使用方法や設置方法をすると、火災や一酸化炭素中毒などの恐れがあります。製品の性能をよく理解したうえで安全な使用を心がけてください。
- 煙は煙突から排気されるので通常使用では一酸化炭素中毒の恐れはありませんが、必ず30分に1回程度出入口を開けて換気を行なってください。市販の“一酸化炭素チェッカー”的利用をお勧めします。
- 雨天時でも使用はできますが、天候状況には常に細心の注意を払ってください。悪天候が予想されるときは使用を控えてください。万が一、使用中に悪天候にみまわれた場合は、速やかに使用を中止して安全な場所へ避難してください。
- 河原の中州や崖下などの増水、落石の危険のある場所でテントを設営しないでください。
- 積雪によりテントの裾が覆われたり、低温化で氷結したときなどは極端に通気性が悪くなります。こまめに除雪したり入り口を開けるなどして常に換気をしてください。
- 薪以外のもの(例:ガソリン、灯油、プラスチック、ビニール、ゴム、竹、発泡スチロール、ペニア、化学塗料で塗装された木材など)は絶対に燃やさないでください。また、サウナストーブを焼却炉として使用しないでください。本体や煙突の耐久性を弱めたり有毒ガス発生の原因となる恐れがあります。
- サウナストーブの上や周囲および煙突の周囲には、紙・衣類・洗濯物など可燃物を絶対に置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- サウナストーブの周囲には、ガソリン、ベンジン、スプレー缶など引火の恐れのあるものを置かないでください。爆発や火災の原因となる恐れがあります。
- ストーブや煙突は、絶対に改造しないでください。正常な機能が損なわれる恐れがあります。
- テント給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。テント内空気が不足して酸欠状態になる、あるいは煙や炎が室内に戻ってくる恐れがあります。
- 燃焼中に本体にヒビが入るなど、破損した場合は使用を中止してください。
- 灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、可燃物のない場所に保管し、完全に鎮火後、廃棄してください。灰を処理するときに紙袋や樹脂製バケツなどは絶対に使用しないでください。灰が入っている容器を可燃物の上に置かないでください。灰は冷めているように見えても長時間にわたり火種が残っている場合があります。
- サウナストーブから離れるときは、薪投入扉が完全に閉まっていることを確認してください。燃焼中の薪や火種がストーブの外に落ちて、火災の原因となる恐れがあります。
- サウナストーブは水平な床面に設置し、テントサウナ以外では使用しないでください。
- サウナストーブの薪投入扉は薪の追加、調整など以外では、必ず閉じたまま使用してください。
- 灰取出し口は、着火時以外は必ず閉じて使用してください。
- サウナストーブとサウナテントは触れないよう離し、設置してください。
- ベグが刺さる地面(土)で設置し、テント本体はベグとロープで確実に地面に固定してください。風で飛ばされたり雨水が溜まって思わず事故につながることがあります。
- 灰取出し口の開閉操作、着火、薪の投入など、サウナストーブを扱う際は必ず耐熱グローブを装着してください。

- 心臓病、高血圧症、皮膚疾患、お年を召した方、病気療養中の方、薬服用中の方は必ず医師にご相談のうえご使用ください。それ以外の方についても、体調に合わせてご入浴ください。
- 当テントの定員は4名です。大人数での使用は控えてください。

この注意事項を守らないとケガを負う、または製品に損傷を与える恐れがあります。

設置時

- 一人でも可能ですが、二人以上で作業を行なう方が安全かつ効率的に設置できます。
- 安全のため、グローブを着用してください。
- 石や木の枝等、テントを傷付ける恐れのあるものはあらかじめ取り除き、整地してから設置してください。
- 煙突の最上部に可燃物がない事を確認してください。(離隔距離 3m 以上)
- 風が強い場所や状況での使用は避けてください。
- 軒下や木の下などの設営は避けてください。また、当テントは屋外専用です。
- サウナストーブの周囲には可燃物を置かないでください。
- サウナストーブの上に置くサウナストーンは崩れないように積み上げてください。
- 常設はせずに、使用の都度、撤去してください。
- 設置に所轄の関係機関による許可が必要になる場合があります。

使用時

- 燃焼中、および燃焼後しばらくの間、ポール、サウナストーブ、煙突、サウナストーンは高温になっていますので絶対に触らないください。火傷の原因となります。
- サウナストーブの輻射熱を長時間、直接皮膚にあてると火傷の原因となります。特に乳幼児、お子様、お年寄り、身体の不自由な方がサウナストーブの近くにいる場合は、まわりの方が声をかけてください。
- 薪の入れ過ぎや燃焼空気の取り入れ過ぎなどによる、サウナストーブおよび煙突の過熱に注意してください。過熱は、サウナストーブ本体および煙突の破損や劣化を早めるばかりでなく、火災につながる恐れがあります。
- 十分に乾燥した薪をご使用ください。薪以外の燃料は使用しないでください。乾燥が不十分な薪は燃えにくく、不完全燃焼を起こし煙が多く発生します。
- サウナストーブ表面は、使用後本体が十分に冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。
- メンテナンスの際は、グローブなどを着用し作業を行ってください。
- 燃焼中に薪投入扉を開ける場合はゆっくりと行ってください。急な大量給気により、炎が扉から外に出る恐れがあります。
- サウナストーンは必ず専用のものを使用してください。石の中に空気が混じっていると、加熱により破裂し怪我を負う場合があります。
- サウナストーンに水をかける際は石上で蒸発できるよう少しづつゆっくりかけてください。一度に多量の水をかけると非常に熱く感じたり、場合によっては火傷をする恐れがあります。

撤去時

- サウナストーブ、煙突、サウナストーンは大変熱くなっています。十分に冷めていることを確認してください。
- ベンチなどを撤去して十分なスペースを確保してください。
- 一人でも可能ですが、二人以上で作業を行なう方が安全かつ効率的に撤去できます。
- 安全のため、グローブを着用してください。
- 使用後は汚れを落とし、十分に乾かしてから収納・保管してください。
- サウナストーブや煙突に水をかけて冷やさないでください。(本体のサビや劣化等の原因になります)
- 灰は、サウナストーブ本体が冷えている状態で処理してください。火傷の原因となります。
- 灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、完全に鎮火を確認し、廃棄してください。
- 灰を捨てる際のゴミの分別は各地方自治体の指導に従ってください。

内容物

・ ペッグ 8 本



・ ロープ 4 本



・ テント本体 1

・ テント収納袋 1

サウナテントの設営方法

1 テントを地面に広げる

収納袋からテント本体を取り出します。テント生地に骨格がセットされているので、そのままの状態で地面に広げます。



2 天面部分を上にする

天面部分を上向きに広げ、煙突を出すホールの生地部分のマジックテープを外しておきます。



3 側面部の引手ロープを強く引く

側面中央の引手を引っ張り、骨格を膨らませます。
※裏返った傘を戻すイメージで、強く引っ張ります。



4 側面4面を完成させる

側面中央の引手を1面ずつ引っ張って
サウナテントの壁面を完成させます。

※壁面を膨らませる際に
やりにくい場合は、対角線上に交互に引くと
やりやすいです。



5 テント内部から天井を押し上げる

すべての壁面が凸面になったら、サウナテント内部に入り天井の引手を上に押し上げて完成です。



6 固定する

側面中央の引手にロープを通し、地面にペグで固定してください。テントスカート部分もペグで固定してください。

7 ストーブを設置する

設営が完了したら、ドアファスナーを開いてサウナストーブやベンチなどを設置してください。

※サウナストーブ後ろの通気口は必要に応じて開けてください。

サウナストーブの設置について(サウナストーブ FSS01の場合)

- 1) ストーブ本体が正しく組み立てられているか、損傷はないかを確認し、テント内にストーブを運び込みます。
 - 2) テントの煙突ホールの真下にストーブの煙突が来るよう、ストーブ本体の位置を調整します。
 - 3) ストーブ本体に煙突パイプ5本をつぎ足します。
 - 4) 最後に煙突最上部にレインキャップを取付けます。
- ※ストーブ組立・設置詳細はストーブの取扱説明書に従ってください。

